

一友ビルドテック（中央区陽光台）は、外壁や屋根塗装を手掛けています。相模原市内の住宅を中心に年間約100棟の塗装工事を担っており、雨漏り調査や防水工事までも展開しています。同社が進めているのは、付加価値が高い塗装です。宇宙航空研究開発機構（JAXA）開発の断熱技術に応用した遮熱塗料「ガイナ」や、塗るだけで屋根の表面温度が20～30度下げられる「アステックペイント」などを採用。「夏は涼しく冬は暖かい」という、遮熱・断熱効果を外壁塗装でアプローチしています。そんな同社では、長年にわたり外壁で培ってきた塗装技術を室内塗装にも展開しようとしています。今後の戦略について、同社の金塚浩一社長に聞きました。

—外壁塗装工事を主力事業にしています。

「もともとは防水工事を手掛けていたのですが、仕事をしていく中で、優れた塗料に次々と出会いました。そして外壁や屋根塗装に乗り出し、おのずと主力事業に成長していきました。確かに、外壁塗装では同業他社も多いですが、当社は価格ではなく、塗料の機能性を重視し提案しています。例えば、当社で採用している『ガイナ』や『アステックペイント』は大変優れた塗料と言えます」

—具体的にどんな機能でしょうか。

「まず『ガイナ』は、開発元の日新産業（東京都板橋区）がJAXAとライセンス契約を結んで開発したものです。塗料には、熱を制御する特殊セラミックの粒が入っています。遮熱・断熱効果はもちろんです。消臭や防音効果も確認されています。おまけに15年以上は持ちます。

一方、『アステックペイント』も優れた遮熱・断熱性など、数多くの機能性を有しています。いずれも『特殊塗料』と言えるため、施工費用はやや割高になります。が、その後の省エネや電気料金の削減効果を考えると、大きな差が出てきます。当社でも、社屋の外壁や屋根に機能性塗料を施した結果、エアコンの設置台数が半減しました」

—事業再構築補助金にも採択されました。

「これまでは外壁塗料として『ガイナ』などの機能性塗料を訴求してきましたが、実は室内にも使えます。中でも『ガイナ』は防音性もありますので、住宅内でのテレワーク環境の向上に役立つと思います。室内の壁にも、外壁と同じように施工できます。ウィズコロナ時代はテレワークが当たり前になっていますが、そうなる住宅の防音に対するニーズも



高まってきます。もちろん、遮熱・断熱や消臭機能もありますので、快適空間の創出につながります。今回、事業再構築補助金にも採択されましたが、機能性塗料の存在をより多くの人に知ってもらい、体感してもらうため、年内に本社敷地にショールームを新設する予定です」

—今後の目標をお聞かせください。

「SDGsへの取り組みに力を入れていきたいと思っています。省エネ効果などが出せる機能性塗料の普及もその一環です。相模原で商売を始めて20年以上になりますが、これからも地域密着の工事店として、地元からよるこばれる会社を目指していきたいです」

住環境向上に 「塗装」の力で貢献

年内にはショールーム開設も

一友ビルドテック(株)
代表取締役

金塚 浩一さん